



### 喜ばれる「福岡の麦」づくり運動

1. 播種前契約麦の作付励行
2. 種子更新100%
3. 土壌診断に基づく「土づくり」の実践
4. 適期適量播種
5. 麦踏み・土入れ・除草・排水対策の励行
6. 追肥・穂揃期追肥の実施
7. 赤かび病防除の徹底

### 高品質麦の安定栽培のポイント

1. 収穫時期がシロガネコムギ・チクゴイズミと近いので、播種時期を11月15日から11月20日と致します。
2. タンパク質含有率12%以上を確保しランクの高い交付金を獲得します。  
**穂揃期追肥の適期に、適正に施用することを必須とします。**
3. 集荷は、八坂カントリーのみと致します。

月	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月	
	旬	上	中	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
生育相	播種期			分けつ期									幼穂形成期			出穂期	登熟期間						成熟期
時期別作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○弾丸暗渠</li> <li>○二度すきによる深耕</li> <li>○土壌改良材の施用</li> <li>○種子消毒の徹底</li> <li>○基肥の施用</li> <li>○除草剤の散布(播種直後)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○麦踏み(3回以上)</li> <li>○土入れ(3回以上)</li> <li>○ハーモニーDF</li> <li>○バサグラン液剤</li> <li>○1回目追肥</li> <li>○排水溝の設置</li> </ul>									<ul style="list-style-type: none"> <li>○MCPソーダ塩</li> <li>○排水溝の整備・点検</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤かび病防除(1回目)</li> <li>○穂揃期追肥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤かび病防除(2回目)</li> <li>○赤かび病防除(7~10日後)</li> <li>○赤かび病防除(10日後)</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>○適期刈取り(水分25%以下)</li> </ul>

## 1. 土づくり

土づくりを実施して麦の収量・品質向上を目指しましょう。

- (1) 適正なpH(6以上)を維持するために、ミネラルG又は珪鉄を10a当り200kg施用する。  
また土壌の酸性が強い場合は、10a当り炭酸苦土石灰200kgを目安として施用する。
- (2) 稲わらすき込み及び大地めぐみちゃん(1t/10a当り)の施用
- (3) 深耕(作土深15cm目標)

## 2. 排水対策

湿害を受けやすいので停滞水を生じないように①有材暗渠、②弾丸暗渠(基準2m間隔)、③畦立て及び排水溝の整備により排水対策を徹底する。

## 3. 適期・適量播種

異品種混入や種子伝染性の病害を防ぐため、毎年種子は100%更新する。

播種適期	11月15日~20日
播種量	ドリル播き 7kg/10a
播種深度	2-3cm

※厚播きは倒伏の原因になる。  
※大豆後作は播種量を減らす。  
※大豆後作は深播きに注意する。

## 4. 種子消毒

(種子10kg当り)

薬剤名及び使用料	対象病害虫
ベンレートTコート 50g (劇)アトマイヤー水和剤 15g	黒穂病類 ヤギシロトビムシ

※小麦のヤギシロトビムシ多発生ほ場の対策(種子10kg当り)  
クレーザ-FS30 60mlを塗抹処理し乾燥後、ベンレートTコート 50gを種子粉衣する。

## 5. 施肥基準(穂揃期追肥は必須)

(10a当り)

施肥体系	基肥	追肥		追肥		穂揃期追肥	
		1回目(1月中下旬)	2回目(2月下旬)	1回目(1月中下旬)	2回目(2月下旬)	1回目(出穂7~10日後)	2回目(出穂7~10日後)
A	ちくごのめぐみ 444 (14-14-14) 40kg	硬質小麦専用 追肥3004 (30-0-4) 30kg	なし	なし	なし	硫安	15kg
B	同上	NK化成2号 (16-0-16) 30kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg	硫安	25kg	硫安	25kg

※大豆作あとの基肥量は、基準より約5割減とする。又、追肥は生育に応じて加減する。

### 穂揃期追肥を葉面散布する場合 (10a当り)

施肥体系	施肥量	追肥時期
A	尿素 3.5kg/100ℓ	出穂7日後と 14日後頃の2回 (赤かび病防除と同時)
B	尿素 5.4kg/100ℓ	同上

●品質基準が設定され、①タンパク質含有率②灰分③フォーリングナンバー④容積重の基準を下回ると生産・品質に基づく支払い単価が変わります。そのため栽培管理として追肥の徹底と基本技術の励行が重要です。

## 6. 除草剤使用基準

区分	除草剤名	処理方法(10a当り)			対象雑草	使用上の注意
		使用量	希釈水量	散布時期		
初期除草剤	リベレーターフロアブル	60ml 80ml	100ℓ	播種後~ 麦3葉期	初期に発生する 一年生雑草	1. リベレーターフロアブル及びリベレーターGの使用により麦の葉身に白化や黄化等が見られる場合がありますが、その後出てくる葉には認められず回復します。 2. 除草効果を高めるため土壌は小さくして鎮圧しは種後早い時期に散布する。 3. 覆土は3cm程度とする。 4. 散布後の大雨は葉害を生じる恐れがある。 5. 風向きに注意して散布しましょう。 6. 飛散の少ないノズルに交換しましょう。
	ムギレンジャー乳剤	300ml 600ml		播種後出芽前		
	リベレーターG	4~5kg		播種後~ 麦2葉期		
中期除草剤	ハーモニーDF	5~10g	100ℓ	播種後~ 節間伸長前	一年生広葉雑草 (ヤムグラ4節 まで)及びスズメ テッポウ5葉期まで	1. 隣接田の野菜・豆類にかからないように注意する。 2. 麦が黄化することがあるが、後で回復する。 3. 使用後の散布器具は消石灰による規定の洗浄を行う。 4. 除草剤抵抗性スズメテッポウが増加しているほ場では使用しない。 5. キンボウケ類に効果が高いため発生圃場で散布する。
	バサグラン液剤	100ml 200ml	70 100ℓ	生育期 (但し、小麦は 収穫45日前ま で、大麦は収穫 90日前まで)	一年生広葉雑草	
	MCPソーダ塩	200g 300g	70 100ℓ	幼穂形成期 (3月上中旬) ただし、収穫 45日前まで	一年生及び 多年生広葉雑草	

### ※雑草防除のポイント

- 初期除草剤は、雑草が発生する前に散布し雑草の発生を抑える。
- 生育期間中は、中期除草剤または、耕種防除(土入れ)を組み合わせる雑草の防除を行う。

## 7. 赤かび病防除基準

散布時期	薬剤名・使用量/10a当り		使用回数	使用時期
1回目 開花期 (出穂後7~10日)	粉剤	トップジンM粉剤DL 4kg	出穂期以降 2回以内	収穫前 14日まで
2回目 1回目防除の7~10日後	液剤	トップジンM水和剤 1000倍 (水100ℓに100g)		

※ちくしW2号は、赤かび病に弱いので、2回防除を徹底する。  
2回目防除は、1回目防除の7~10日後に行う。

## 8. 収穫

品質確保と作業の効率化を図るため、穀粒水分が25%以下となった時に収穫する。

### 品種特性表

品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	穂長 cm	穂重 cm	穂数 m当り	栽培上の留意点
ちくしW2号	4/11	6/1	84	9.2	482	赤かび病に弱い。 高タンパク質含有率確保のため 穂揃期追肥を実施する。

※栽培履歴(管理日誌)はご記入の上、提出してください。

### ●農薬の安全・適正使用、飛散防止の徹底!

- ※農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。
- ※農薬の散布時は、風向きに注意し、農薬が周辺作物へ飛散しないように注意しましょう。